



Jichi 地域連携ニュース

- ・教授就任のご挨拶 ……………須田 史朗
 - ・教授就任のご挨拶 ……………藤原 寛行
 - ・診療部門からのメッセージ ……医療安全対策部
- ・NST研修会のご案内

教授就任のご挨拶

精神科教授 須田 史朗



本年5月より精神医学教室教授を拝命致しました須田史朗と申します。私は平成8年に東北大学を卒業し、自治医科大学にジュニアレジデントとして着任しました。途中、米国留学や他大学での研究生活を経験しましたが、平成23年に本学に復帰し、現在まで勤務をつづけさせて頂いております。

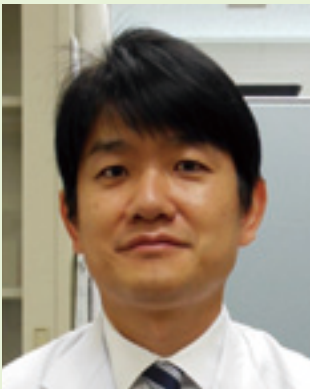
現在、精神医学は大きな転換期を迎えようとしています。かつて、精神疾患は不治の病であり、精神科医の間でも積極的な治療を諦めてしまうことが一般的であった時代がありました。当時は、座して待つことが治療でした。しかし、近年の研究では未治療期間が短いほど向精神薬の治療反応性がよいことが明らかになっています。これは、病状が持続すればするほど、脳の障害が進行する、ということを意味します。また、薬物療法の効果が乏しく治療が困難であると考えられていた症例が、早期の認知リハビリテーションにより改善した、という報告も相次いでいます。

しかし、わが国では未だ「座して待つ」医療が趨勢です。残念ながら、このような精神科医側の問題点が、わが国の精神医療が欧米諸国に対して遅れを取っている要因となっています。効果的な治療を進めるためには、出来るだけ障害が進行していない段階から十分な治療を開始し、早期の回復を目指すことが肝要と考えます。すなわち、脳を護るためには必要な治療をラジカルに行う、という攻めの姿勢が現代の精神医療に求められています。

われわれの教室は、初代の故宮本忠雄教授のもとで「開かれた精神」をモットーに日々研鑽を続けてまいりました。20年前に私が当教室への入局を決意しましたのも、その教室の精神に強い感銘を受けたからであります。その伝統は前任の加藤敏名誉教授のご尽力により脈々と受け継がれ、現在の教室の根幹を成しています。もとより浅学非才の身ではありますが、「開かれた精神」に加え、「攻めの精神医療の展開」を新しいスローガンとして頑張っていきたいと考えております。皆さまのご指導ご鞭撻を頂ければ幸いです。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。





平成 27 年 4 月 1 日付で自治医科大学産科婦人科学講座の教授を拝命致しました。今までご指導いただき、またお世話になりました皆様に、謹んでご挨拶申し上げます。

私は平成 2 年に山口大学医学部を卒業し、日本医科大学救命救急センター、沖縄米海軍病院、国立小児病院（現成育医療センター）を経て、平成 7 年から自治医科大学産科婦人科学講座に入局しました。腫瘍学を専攻し、婦人科がんと子宮内膜症を研究対象としていますが、現在では婦人科がんにおける早期発見を主な研究テーマとし、検診制度の構築や検証なども行っています。また臨床研究にも力をいれており、JGOG（特定非営利活動法人婦人科悪性腫瘍研究機構）や周辺大学と共同で立ち上げた婦人科臨床研究グループ（GOTIC：北関東婦人科がん臨床試験コンソーシアム）の発展にも努めているところです。

さて、産婦人科を取り巻く医療も、多くの科と同様に様々な変革が求められています。婦人科腫瘍の分野におきましても、高度医療技術の導入、臨床研究の強化、新しい専門医制度への対応など、多くの課題がございます。婦人科がん患者さんの手術待機時間の問題も、早急に解決せねばならないことの一つです。当科が地域の中核としての機能をしっかりと果たせるよう、院内体制や他病院との連携強化をすすめていきたいと考えております。診断から治療、またその後の地域病院との連携と、どの段階においても迅速にかつ丁寧に対応出来るようにチーム医療をすすめてまいります。

産婦人科は女性の一生をサポートする科です。患者さんの気持ちに寄り添える医療を目指し、多くの科の先生方のご協力のもと、医局員と共に精進する所存です。今後ともご指導、ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。





「医療安全」について、かつてないほど社会的関心が高まっているのは、昨今の報道をみても既に皆様ご認識の通りだと思います。「安全で質の高い医療の提供」は、言うまでもなく我々医療従事者にとって最も重要な課題であり、特に高度先進医療を担う特定機能病院である当院においては、複雑化、高度化していく医学や医療システムに全病院職員を挙げて適切に対応する責務があると認識しています。

医療安全対策部は、「事故が発生しにくいシステムの構築」をめざすための、組織横断的な部門と位置づけられており、現在、医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士、事務合わせて23名の専任・兼任スタッフが連携して、有害事象（医療事故）を減少させるための情報収集・分析と情報提供、職員研修の実施等による安全教育、不幸にして発生した有害事象への対応などに取り組んでいます。毎週カンファレンスで事例を検討し、改善案を発信しています。

今年10月からは、医療事故調査制度も施行され、それぞれの医療機関においても対応されていることと思います。制度はまだ発展途上ですが、安全の確保、再発防止に向けた新たな一歩であると思います。当部門は、医療安全に関する情報の発信、共有においても是非連携を深めていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

NST研修会のご案内

参加無料（申し込み不要）

会 場 自治医科大学地域医療情報研修センター 中講堂（本館西側の茶色の建物）
 対 象 NSTのための専門的な知識・技術を有する看護師・薬剤師及び管理栄養士の養成を目的とした研修
 問合先 臨床栄養部 NST支援室 ☎ 0285-58-7574 メール nst@jichi.ac.jp

開催月日・会場	テ ー マ	講 師
平成27年11月10日（火） 18：00～19：00 研修センター 中講堂	血糖コントロールと栄養管理	内分泌代謝科 岡田 健太 医師 看護部 馬場 千恵子 看護師 （糖尿病看護認定看護師・NST専任看護師） 臨床栄養部 荒川 由起子 管理栄養士 （NST専任管理栄養士）
平成27年12月 1日（火） 18：00～19：00 研修センター 中講堂	生体侵襲と栄養管理	消化器外科 倉科 憲太郎 医師 （NST運営委員長）
平成28年1月12日（火） 18：00～19：00 研修センター 中講堂	腎障害における栄養管理 腎機能低下時の経腸栄養剤	腎臓内科 小林 高久 医師 臨床栄養部 椎名 美知子 管理栄養士 （NST専任管理栄養士）